東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2005年8月26日

ミアラージュの夜

ムスリムの皆様。アッラーは、地上においていくつかの土地を聖なるものとされました。同様に、一部の時を、聖なるものとされたのです。この、聖なる時のうちの一つが、８月３１日に迎えるミアラージュの夜です。ミアラージュ、預言者ムハンマドの昇天は，動作として実際に行なわれたのかどうか、という議論はおいておき、私たちは、アブー・バクルがおっしゃられたように、「もしそれを預言者ムハンマドが言ったのであれば、それは絶対に正しい。」という立場をとります。ミアラージュの論理的な基本を理解したい人に対しては、この奇跡のあり方を再度語ることが最良の答えとなるでしょう。

ムスリムの皆様。ご存知のように、イスラーウ（夜の旅）とミアラージュは、同じ夜に起こった出来事です。それで、ここでもう一度、その名を関した章で説かれていることに耳を傾けてみましょう。アッラーは以下のように語られておられる。「かれに栄光あれ。そのしもべを、（マッカの）聖なるマスジドから、われが周囲を祝福した至遠の（エルサレムの）マスジドに、夜間、旅をさせた。わが種々の印をかれ（ムハンマド）に示すためである。本当にかれこそは全聴にして全視であられる。」「アッラーと一緒に外の神を立ててはならない。さもないと、あなたがたは軽蔑され見捨てられるであろう。あなたの主は命じられる。かれの外何者をも崇拝してはならない。また両親に孝行しなさい。もし両親かまたそのどちらかが、あなたと一緒にいて老齢に達しても、かれらに「ちえっ」とか荒い言葉を使わず、親切な言葉で話しなさい。そして敬愛の情を込め、両親に対し謙虚に翼を低く垂れ（優しくし）て、「主よ、幼少の頃、わたしを愛育してくれたように、２人の上に御慈悲を御授け下さい。」と（祈りを）言うがいい。主はあなたがたの心の中に抱くことを熟知なされる。もしあなたがたが正しい行いをするならば、かれは悔悟して度々（主に）返る者に対し、本当に寛容である。

近親者に、当然与えるべきものは与えなさい。また貧者や旅人にも。だが粗末に浪費してはならない。浪費者は本当に悪魔の兄弟である。悪魔は主に対し恩を忘れる。あなたは主からの慈悲を請い願うために、仮令かれらから遠ざかっていても、あなたはかれらに対し優しく語りなさい。あなたの手を、自分の首に縛り付けてはならない。また限界を越え極端に手を開き、恥辱を被り困窮に陥ってはならない。本当にあなたの主は、御心に適う者への報酬を豊かにされ、また控えられる。かれはそのしもべに関し、本当に全知にして全視であられる。貧困を恐れてあなたがたの子女を殺してはならない。われはかれらとあなたがたのために給養する。かれらを殺すのは、本当に大罪である。私通（の危険）に近付いてはならない。それは醜行である。憎むべき道である。正当な理由による以外は、アッラーが尊いものとされた生命を奪ってはならない。誰でも不当に殺害されたならば、われはその相続者に賠償または報復を求める権利を与える。殺害に関して法を越えさせてはならない。本当にかれは（法によって）救護されているのである。孤児が力量（ある年齢）に達するまでは、最善（の管理）をなすための外、かれの財産に近付いてはならない。約束を果たしなさい。凡ての約束は、（審判の日）尋問されるのである。それからあなたがたが計量する時は、（買い手のために）その量を十分にしなさい。また正しい秤で計りなさい。それは立派であり、その方が結果として最良になる。またあなたは、自分の知識のないことに従ってはならない。本当に聴覚、視覚、また心の働きの凡てが（審判の日において）尋問されるであろう。また横柄に地上を歩いてはならない。あなたがたは大地を裂くことも出来ず、また（背丈が）山の高さにもなれない。これらの凡ては悪事で、あなたの主は、これを憎まれる。これらは、主があなたに啓示された英知である。アッラーと一緒に外の神を立ててはならない。そうでないと恥辱を受け（慈悲を）拒否され地獄に投げ込まれるであろう。」